

第60号【2010/05/15 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

巻頭言

『目をみはって』

消化器センター 准教授 大塚 和朗

医師の配属・異動・退職

診療統計

病院からのお知らせ

ロビーコンサートのお知らせ

北部病院版『通院安心メモ』設置の紹介

平成22年度 臨床研修医の紹介

北部イベント

編集後記



10回目の春を迎えることができました。

巻頭言

『目をみはって』



消化器センター

准教授

大塚 和朗

消化器の病気の診療では、みて診断するということが大きなウエートを占めています。色や形の変化がみられない「機能的疾患」といわれるものもありますが、癌や潰瘍など見てわかる変化が起こる病気には生命にかかわるものがあります。そこで、内視鏡という管を消化管に挿入して直接にみて診断をします。見ただけではわかりにくいものは、色を変えてみるという方法があります。さらに詳しく見るために拡大してみるという方法もあります。

20世紀末には、食道、胃、十二指腸そして大腸も内視鏡の守備範囲となりました。さて、小腸はどうでしょうか。栄養の消化吸収を担当する小腸は、伸ばせば6メートルを超える長さがあり、その表面積はテニスコート1面分もある大きな内臓です。この広い表面から栄養を吸収するのですが、このときに体に必要なものは小腸粘膜を通して取り込む一方で、細菌などは入ってこないようにしなければなりません。そこで異物の侵入を監視する免疫システムが非常に発達しています。そのためか病気になることの少ない内臓です。食道、胃、大腸にはしばしば癌ができるのに対して、幸い小腸の癌は稀です。重要なので故障が少なくできているのでしょう。とはいうものの、やはり病気はあります。しかし最近まで小腸は、大きく重要な内臓でありながら、管の挿入が困難なために内視鏡の光が当たらないわかりにくいものとして「消化管の暗黒大陸」とも呼ばれていました。

21世紀に入り、大きな技術革新から小腸にも内視鏡が到達できるようになりました。一つは、バルーン内視鏡という、内視鏡本体と風船のついた外筒を組み合わせて全消化管への到達を可能にしたものが開発されました。もう一つは、カプセル内視鏡です。それまでの内視鏡は長い管を体内に挿入していくというもので、苦痛がないとは言えませんでした。カプセル内視鏡は、長さ26mm、直径11mmのカプセル型の小型カメラを飲み込んで体内を撮影して検査をするものです。検査中も日常生活は普通にでき、楽であるというのは大きな利点です。いまのところは小腸だけが検査の対象ですが、他の消化管への応用を研究しています。

さて、到達することができるようになりましたが、病気を見つけなくてはなりません。よく見る、ということに尽きるのですが、早期の腫瘍などは分かりにくいものも多いのです。

そこで工夫し考えられたのが、一つは色をかえてみる。これまでは微妙な色調の変化をとらえて診断をしていました。しかし、病気の部分だけ色が違って見えれば区別がすぐにつきます。そこで、通常の白色光とは異なる青味がかった光で照明し、得られた画像を処理して病気の部分が強調して表示される方法が実用化されています。

そして拡大してみる。そのままではよくわからないものも大きくしてみることで、性質がよくわかるようになります。100倍程度まで拡大してみるにより癌なのかどうかの区別がつくようになってきました。さらに1000倍に拡大してみると、これは顕微鏡の世界です。細胞を直接に観察して、癌細胞なのかどうかの区別ができます。早期の、根を張っていない癌と診断できれば内視鏡で切除します。

しかし、このように表示の方法が進歩しても、一番大事なものはそれを判断する目です。機械は進歩し、以前と比べればはるかに容易に見ることができるようになりましたが、何が見えているのかを理解していなくては、見れどもみえずとなり、診断はできません。内視鏡医はここに研鑽をつんでいます。

これまで当院では、内視鏡挿入法の改良、内視鏡診断方法の確立に加え、拡大内視鏡や小腸内視鏡の開発なども行ってきました。これからも、内視鏡検査における、患者さんの負担の軽減とともに、正確な診断と適切な治療のために努力してまいります。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

～5/1 付

峯岸 玄心
(メンタルセンター)
昭和大学
平成 16 年卒

林 隆弘
(外科)
昭和大学
平成 16 年卒

新城 梓
(産婦人科)
昭和大学
平成 16 年卒

斎藤 克幸
(泌尿器科)
昭和大学
平成 13 年卒

菫原 洋輔
(呼吸器センター)
昭和大学
平成 20 年卒

藤崎 恭子
(呼吸器センター)
昭和大学
平成 20 年卒

工藤 豊樹
(消化器センター)
日本医科大学
平成 16 年卒

石黒 智也
(消化器センター)
岐阜大学
平成 17 年卒

渡邊 大輔
(消化器センター)
岐阜大学
平成 17 年卒

谷坂 優樹
(消化器センター)
愛媛大学
平成 19 年卒

一政 克朗
(消化器センター)
東北大学
平成 19 年卒

武田 健一
(消化器センター)
昭和大学
平成 19 年卒

小川 悠史
(消化器センター)
昭和大学
平成 20 年卒

山内 章裕
(消化器センター)
昭和大学
平成 20 年卒

五十嵐 健太
(消化器センター)
昭和大学
平成 20 年卒

高柳 大輔
(消化器センター)
日本大学
平成 20 年卒

中原 健太
(消化器センター)
鳥取大学
平成 20 年卒

前田 康晴
(消化器センター)
滋賀医科大学
平成 20 年卒

渡邊 太郎
(こどもセンター)
昭和大学
平成 17 年卒

大山 伸雄
(こどもセンター)
埼玉医科大学
平成 16 年卒

岡部 俊孝
(心臓血管外科-リ室)
昭和大学
平成 20 年卒

中原 広明
(内科)
富山医科薬科大学
平成 9 年卒

加藤 雅典
(内科)
昭和大学
平成 20 年卒

小林 直人
(内科)
昭和大学
平成 20 年卒

松坂 貴太郎
(内科)
昭和大学
平成 20 年卒

三沢 志保
(内科)
埼玉医科大学
平成 20 年卒

船木 翔
(放射線科)
昭和大学
平成 20 年卒

松成 一矢
(放射線科)
昭和大学
平成 20 年卒

渡邊 孝太
(放射線科)
昭和大学
平成 20 年卒

谷坂 愛
(放射線科)
愛媛大学
平成 20 年卒

砂押 紀子
(放射線科)
聖マリアンナ医科大学
平成 20 年卒

山下 皓正
(外科)
昭和大学
平成 20 年卒

国井 健太
(外科)
札幌医科大学
平成 15 年卒

斎藤 洋幸
(耳鼻咽喉科)
昭和大学
平成 20 年卒

滝口 修平
(耳鼻咽喉科)
昭和大学
平成 20 年卒

岡和田 英昭
(眼科)
昭和大学
平成 18 年卒

岩本 泰斗
(麻酔科)
昭和大学
平成 20 年卒

志賀 勇昭
(麻酔科)
昭和大学
平成 20 年卒

附属病院 配置転換 転入

国村 利明
(病理診断科)
昭和大学
第一病理学より

杉山 美紀子
(皮膚科)
昭和大学医学部
皮膚科学より

荒川 香
(産婦人科)
昭和大学医学部
産婦人科学より

中山 禎理
(脳神経外科)
昭和大学医学部
脳神経外科学より

山田 英介
(メンタルケアセンター)
烏山病院 精神医学より

飛田 真砂美
(メンタルケアセンター)
烏山病院 精神医学より

田中 裕
(こどもセンター)
藤が丘病院
小児科より

田淵 陽子
(麻酔科)
歯科病院
歯科麻酔科より

北部病院内 配置転換

菊嶋 修示 (内科 救急センター)
若村 邦彦 (消化器センター 救急センター)

伊藤 英利 (内科 救急センター)
和田 祥城 (救急センター 消化器センター)

【退職】

中島 宏昭(呼吸器)	塩川 章(病理診断科)	今永 和幸(麻酔科)	樫田 博史(消化器)
松岡 孝(こども)	富永 牧子(こども)	西岡 玄太郎(メタ病)	中野 賢英(外科)
ロッカー 由(麻酔科)	新井 美奈子(麻酔科)	鈴木 陽子(麻酔科)	吉松 軍平(消化器)
南 ひとみ(消化器)	塩飽 洋生(消化器)	森川 吉英(消化器)	大場 啓一郎(放射線科)
奥村 太輔(泌尿器科)			

【長期出張】

玄 良三(呼吸器)	伊藤 寛晃(消化器)	久行 友和(消化器)	鈴木 道隆(消化器)
児玉 健太(消化器)	矢川 裕介(消化器)	横山 顕礼(消化器)	及川 裕将(消化器)
豊嶋 直也(消化器)	中村 大樹(消化器)	布山 正貴(こども)	岡本 紘子(産婦人科)

【転出・異動】

大池 信之(昭和大学第一病理学へ)	保坂 浩臣(医学部皮膚科学へ)
松岡 彰(医学部整形外科学へ)	増田 陸雄(歯科病院歯科麻酔科へ)
藤島 裕丈(昭和大学脳神経外科学へ)	板垣 太郎(烏山病院精神科へ)
長濱 隆明(昭和大学小児科学へ)	長谷部 義幸(昭和大学小児科学へ)
高橋 郷(昭和大学耳鼻咽喉科学へ)	

診療統計

2019年3・4月統計データ()内は1日平均

診療実日数 入院・・・31日(3月)・30日(4月) 外来・・・26日(3月)・25日(4月)

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
3月	34,098人(1,311.5人)	17,345人(559.5人)	304件(10.1件)	623件(28.3件)
4月	32,322人(1,292.9人)	16,742人(558.1人)	329人(11.0人)	559件(26.6件)

病院からのお知らせ

ロビーコンサートのお知らせ

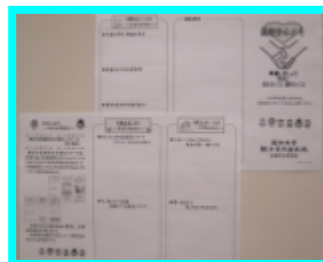
- ◇ 5月28日(金) 渡辺 静さん・桐原あけみさん (ピアノ・ヴァイオリン演奏)
- ◇ 6月30日(水) 池内 光子さん (アコーディオン演奏)

会計前ロビー(中央棟1階)にて19:00より開催いたします。30分間の演奏会です。是非、お越しく下さい。
コンサート予定表は、各病棟掲示板および会計前ロビーにて掲載しております。
曲目につきましては、コンサート当日、会計前ロビーにて掲示いたします。ご確認ください。

安心通院メモの設置のお知らせ

病院だより第58号で、横浜市医療安全支援センター作成『病院の上手なかかり方』のリーフレットの紹介をいたしました。この度、北部病院版が完成いたしました。
このリーフレットは問診票ではございません。外来通院時のメモとして便利にご利用いただけるように作成いたしました。
以下の2箇所に設置させていただいております。ご利用ください。

【設置場所】 総合案内 初診記載台



外来予定表 未掲載のお知らせ

原稿の都合上、外来担当表の掲載が出来ませんでした。次号から、再掲させていただきます。
ご理解くださいますようお願いいたします。
また、外来担当表は、初診受付にて配布させていただいております。

平成22年度臨床研修医紹介

この4月、初期臨床研修医第7期生21名を迎い入れ、新年度がスタートしました。期待されるべき医療プロフェッショナルに少しでも近づけるよう、この2年間様々な科をローテーションしながら、大いに実力をつけていって下さい。学生実習とは異なり、まさに on the job training(OJT) 毎日が自らを鍛える場です。しかし、ただ数多くの経験を積むというだけでは、なかなか医療のプロには近づけません。医学教育的な考え方からすれば、目標を立て、方略を練り、行動そして評価を受ける、このようなプロセスを繰り返しながら、問題の設定力や解決力が備わっていくのでしょうか。また、とかく専門的な知識の習得に目が奪われがちですが、医師としての技能や、人としての態度・習慣も同様に大切です。患者さんの視点に立った安全、安心な医療をいかに提供できるかが問われる訳です。

我々指導医は、グライダー曳航機のごとく、君たちが2年間の研修の後、大空に羽ばたいていってくれるよう力になりたいと思っています。どうか“未来の希望の星”となるべく充実した研修医生活を送って下さい。 臨床研修コーディネート委員会 成島 道昭

表の見かた

研修医
顔写真

研修医氏名

出身大学

5月研修先診療科

6月研修先診療科

自己紹介文

飯塚 安倫

昭和大学卒業

5月 救急センター

6月 緩和ケア / 画像

はじめまして、昭和大学出身の飯塚安倫と申します。

学生時代は北岳診療部という部活に所属し、夏山で診療活動をしていました。

現在は救急センターで研修させていただいております。新しい環境の中、不安もありましたが、スタッフの方々や患者さんから暖かく接していただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。北部病院で研修できることをとても嬉しく思っています。それと同時に、医師としての責任の重さも感じています。その分、大きなやりがいを感じながら研修させていただいております。

まだまだ半人前以下ですが、皆さんから信頼していただけるような医師になるべく、努力をしていきたいと思っております。ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

大湾 喜行

埼玉医科大学卒業

5月 内科

6月 同上

はじめまして。埼玉医科大学卒業の大湾喜行(おおわんよしゆき)と申します。

出身地が昭和大学に近く、その縁もあって今年度から北部病院で初期臨床研修医として勉強させていただく事になりました。

4月から総合内科で研修させていただいております。研修が始まり2週間が経ちましたが、学ばなければならない知識や会得しなければならない技術が多く、自分の未熟さに歯痒い思いをするばかりの毎日です。

先輩の医師やスタッフの方々に迷惑をかけてしまう事も多いのですが、知識や技術の習得に邁進し、一日も早く患者様のお役に立てるような医師になるべく精一杯の努力をしたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

朝倉 慶

昭和大学卒業

5月 救急センター

6月 画像 / 緩和ケア

研修医1年目の朝倉慶です。昭和大学出身です。趣味はゴルフとスノーボードです。

将来の志望科としては内科を考えており、各科にわたる総合的な診療ができるような医師になりたいと思っております。そのため、研修期間中は色々な科を回り、様々な手技や診察、治療方法などを身につけて行きたいです。しかし、とりあえずは医療の現場に慣れることから始めていきたいです。

北部病院は職員の方々がとても親切で教育熱心であり、病院もとてもきれいであるため研修するにはうってつけの環境であると思っております。このような環境の下で働けることに感謝しつつ精一杯頑張っていきたいです。至らないこともたくさんあるかと思いますが、どうかご指導、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

宇藤 悠

昭和大学卒業

5月 内科

6月 同上

はじめまして。昭和大学出身の宇藤 悠と申します。

出身は神奈川県川崎市で、実家から北部病院までは30分くらいです。大学時代は陸上部に所属し、短距離種目と投擲種目に励んでいました。

医療の現場に実際に研修医として出てみて、自分の無力さに四苦八苦している次第であります。どんな手技、処置、知識でも貪欲に吸収して行きたいと思っております。そして早く皆さんのお役に立てるようになることを目標としています。

まだまだ未熟で至らない点ばかりの研修医であります。先生方やスタッフの方々にご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

加賀 康宏

昭和大学卒業

5月 麻酔科

6月 救急センター

はじめまして、昭和大学出身の加賀康宏と申します。

大学時代は、北岳診療部に所属しており、他には、ゴルフ、テニス、音楽活動など趣味に明け暮れ過ごしていました。

現在は麻酔科で研修させていただいております。本格的に研修が始まりましたが、皆さんに迷惑をかけてばかりで自分の無力さを日々痛感しております。毎日少しずつでも学べること、出来ることを見つけ、積極的に取り組んでいけるように頑張り、早く役に立てる研修医になりたいと考えております。

これから2年間、多くの先生やスタッフの方々にお世話になると思っておりますが、チームの一員として社会に貢献できるよう努力したいと考えておりますので、どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

加藤 憲 昭和大学卒業
5月 消化器センター(内)
6月 同上

はじめまして。この度北部病院で研修させていただくことになりました加藤憲です。

学生時代6年次に北部病院で1ヵ月実習させていただき、先生方や雰囲気や病院の環境に惹かれてこの病院を選びました。

この2年間の研修では、知識・技術とともに、常に患者さんの立場で物事を考える心のある医師であることを目指して頑張りたいと思っています。

現在消化器センターで研修していますが、まだまだ慣れないことが多く、先生方・スタッフの方々に迷惑をおかけしてばかりですが、精一杯頑張りますので、今後ともご指導のほど、よろしくお願ひいたします。

木村 真也 金沢大学卒業
5月 麻酔科
6月 内科

はじめまして、木村真也と申します。

生まれは、世界遺産「白鷺城」でお馴染みの兵庫県姫路市です。なので、ナチュラルボーン阪神ファンです。

育ちは、地元の横浜市都筑区茅ヶ崎南です。なので、実家から通わせていただいております。

出身大学は、海鮮とお酒が最高に美味しい、石川県にある金沢大学にいました。地元から離れて、一回り(10kg)大きくなって帰ってまいりました。

2年間精一杯、地元の医療に貢献したいと思っておりますので、至らない点は多々あるかと思いますが、どうぞ、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

小玉 晴菜 昭和大学卒業
5月 麻酔科
6月 呼吸器センター(外)

はじめまして、昭和大学出身の小玉晴菜と申します。生まれも育ちも横浜で、横浜をこよなく愛しておりますので、北部病院で研修することができ、とても嬉しく感じております。

大学では硬式テニス部に所属し、ひたすらテニスに明け暮れておりました。少々テニスをし過ぎたようで、今になって、その分(?)勉強が足りなかった...と強く感じております。しかし、部活で培った体力を活かして今後は少しでも早く皆さんのお役に立てるよう精進したいと思います。

4月からは麻酔科でお世話になっております。患者さんや麻酔科をはじめ各科の先生方に接する中で、日々自分の無力さを痛感すると同時に、改めて医師として頑張っていきたいと感じております。ご迷惑をおかけしてばかりですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

小林 香映 東海大学卒業
5月 消化器センター(内)
6月 救急センター

東海大学出身の小林香映です。はじめまして。

学生時代は、ダンス、写真、旅行など、好きなことを幅広く、のびのびと楽しんで過ごしてきました。

現在は消化器センター(内科)で研修をさせていただいておりますが、今はまだ、自分の未熟さを痛感しつつ、精進している日々です。

至らない点も多く、先生方、周りのスタッフの方々には、ご迷惑をおかけしていると思います。それでも、少しでも早く成長していけたらと思っています。

ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひします。

小松崎 敏光 昭和大学卒業
5月 呼吸器センター(外)
6月 呼吸器センター(内)

はじめまして。小松崎敏光と申します。2年間北部病院で研修させていただくことになり、現在は呼吸器センターでお世話になっております。

学生時代は弓道で日々の心を見つめて参りました。これからも少しずつ地道に深めていきたいと考えています。

研修医になり、学生時代には認められていなかった事が色々行えるようになりました。日を追うごとに院内のことも分かって参りましたが、まだまだ医療従事者として満足に出来ないことばかりで、己の未熟さを痛感する日々が続いています。先生方、スタッフの方々、患者さまにご負担をおかけしておりますが、温かく接していただき大変ありがたく感じております。早くお役に立てるよう日々励み、ひとつひとつ出来ることを増やしていこうと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

齋藤 佳範 昭和大学卒業
5月 消化器センター(外)
6月 内科

はじめまして。昭和大学出身の齋藤佳範と申します。

大学では北岳診療部に所属していました。日本で2番目に高い北岳にある診療所で、OBの先生方とともに、登山者さんの安全に寄与する活動をしていました。

大学6年生の時に、昭和大学横浜市北部病院の総合内科・放射線科で2ヶ月間実習させていただき、先生方・スタッフの方々・雰囲気に引かれ、研修をさせて頂きたいと思いました。

4月から、消化器センターで研修させて頂いております。日々無力さを痛感しています。これからも、先生方・スタッフの方々にご迷惑をおかけすることも多々あるかもしれませんが、一步一步できることを増やしていき、患者さん・病院のお役に立てるよう努力していくつもりです。

今後とも、ご指導ご鞭撻どうぞよろしくお願ひします。

釋尾 知春 昭和大学卒業
5月 救急センター
6月 麻酔科

こんにちは。昭和大学出身の釋尾知春(しゃくおともはる)と申します。北部病院の提供する高度な医療と、そこで働いていらっしゃる皆さまの温かい人柄に魅力を感じ、研修施設として選択させていただきました。

学生時代は、バンドでボーカル、ギター、キーボードを、趣味として、手品やジャズピアノ。スポーツは水泳とボクシングなど、様々なものに興味を持ってきました。決して器用ではありませんが、一つのことをずっと練習するのは得意です。

まだまだ未熟なところが多く、ご迷惑をおかけすると思いますが、研修医として2年間、どんなことでも精一杯取り組むよう努力いたします。どうぞ厳しくご指導くださいますよう、お願いいたします。

田中 義人 昭和大学卒業
5月 呼吸器センター(内)
6月 麻酔科

はじめまして。昭和大学出身の田中義人と申します。学生の時はハンドボール部に所属していました。

4月から呼吸器センターで研修させていただいています。これからの2年間で医療従事者として必要な知識、技術はもちろんのこと、人との接し方や円滑なコミュニケーションを取れる様に教養を身につけたいと思っております。また、今までは学生ということで甘えていた部分がありましたので、社会人としての自覚をもって研修に臨みたいと思っております。

まだまだわからないこととできないことが多く、そのため自分ができないことにご迷惑をおかけしてしまうこともあるかとは思いますが、一つ一つできることを増やしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

中江 星子 昭和大学卒業
5月 消化器センター(内)
6月 麻酔科

はじめまして、昭和大学出身の中江星子です。出身は北海道札幌市です。

大学時代は白馬診療部に所属していました。部活動やアルバイト、趣味の旅行や映画鑑賞などを楽しみながら、のんびりとした大学生活を送っていました。

5月末まで消化器センター(内科)で研修させていただきました。研修が始まって数週間経ちましたが、わからないことだらけで、失敗や反省ばかりの日々です。それでも暖かく見守ってくださる先生方やコメディカルの方々、同期の皆の存在があるからこそ、頑張ろうと思えるのです。この素晴らしい環境のなかで日々成長していきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いたします。

布上 敏和 川崎医科大学卒業
5月 外科
6月 循環器センター(内)

はじめまして、今年4月から北部病院で研修させていただくことになった岡山県出身の布上敏和です。

大学時代は陸上部とバスケット部に所属し、キツイ中にも楽しいイベントがたくさんあった充実した大学生活を過ごしました。

現在は一般外科で研修させていただいています。分からないことが多いえ、電子カルテの操作に四苦八苦し、先生方やスタッフの方々にご迷惑をおかけしています。

キツイ日もありますが、暖かい先生方やスタッフの方が多く早く仕事に慣れて少しでもお役に立てるようになりたいと思っています。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

橋詰 典弘 昭和大学卒業
5月 呼吸器センター(内科)
6月 同上

はじめまして。昭和大学出身の橋詰典弘と申します。

学生時代は軽音楽部と白馬診療部に所属していました。軽音楽部ではフュージョンやジャズが好きで、ドラムを演奏していました。白馬診療部では、自分のごつい見た目に反して体力がないのですが、何とか登山をしていました。

現在は呼吸器センター内科で研修させていただいております。右も左も分からない状況で、指導医の先生の後ろについているばかりと、少しも役に立ちません。それどころか、自分が抹消のルートを失敗するなど、仕事を増やしてしまい申し訳なく感じています。

これからの2年間の研修で一つ一つの仕事を確実に吸収していきたいと思っておりますので、ご指導よろしくお願いたします。

秦 未稀 昭和大学卒業
5月 麻酔科
6月 救急センター

こんにちは。昭和大学出身の秦 未稀と申します。

中高時代は器械体操部、大学生時代は、PSM心身症同好会とダンス部を結成し所属していました。

北部病院の周辺は緑が多く、朝、寮で目覚めると清々しい日光が降り注ぎ、とても清々しい気分で出勤しています。研修が始まりすべてが新しく、動揺を隠しきれない毎日で、多くの方々に迷惑ばかりかけていますが、さまざまなスタッフの方々に支えていただいております、感謝の気持ちでいっぱいです。

電子カルテも指でひとつひとつ押すくらい遅く、自分に嫌気がさしていますが、操作はもちろん病棟処置や手技など早く慣れ、頼られる存在になれるよう努力したいと思っております。また道徳があり温かい言葉をかけられる医師でありたいと思っております。

日々頑張ります。どうぞご指導の程、よろしくお願いたします。

釋尾 有樹子 昭和大学卒業
5月 呼吸器センター(内)
6月 消化器センター(外)

こんにちは。昭和大学出身の釋尾有樹子(しゃくおゆきこ)と申します。北部病院の病院全体にあふれた温かい雰囲気、患者さんに対して熱心に対応する先生方の姿勢に魅力を感じ、是非この病院で研修したいと思いました。

大学では、ダンスサークルに所属し、学園祭などで発表したり、バンドでボーカルとして参加したり楽しい学生生活を送ってきました。

研修生活が始まり、不器用で仕事の覚えも悪く、先生方や看護師さん方、さまざまな方に迷惑をかけてしまっているとともに温かく優しくご指導いただき、大変感謝しています。

これから2年間、先生方のように患者さんから感謝されるような医師に少しでも近づけるよう日々精進していきたいと思えます。どうかご指導の程よろしくお願ひします。

松本 皆子 秋田大学卒業
5月 循環器センター(内)
6月 同上

秋田大学出身の松本皆子です。静岡県浜松市で生まれ、ミシガン州で育ち、横浜、秋田、スイスを経由し、この度当地に腰を据える事となりました。好きな事は、旅行、バイク、ダイビングなどです。

北部病院で研修をさせていただける事となり、大変うれしく思っております。新しい土地、新しい病院で、とても緊張して研修をスタートしましたが、先生方やスタッフの方々温かく迎え入れて下さり、丁寧にご指導して下さい、大変感謝しております。

研修医としての2年間は医師としての土台を作る大事な時期だと多くの先生方に激励して頂きました。理想・目標に近づけるよう、日々精進して参ります。未熟者でご迷惑をおかけしますが、ご指導、ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

油木 真衣 昭和大学卒業
5月 救急センター
6月 呼吸器センター(内)

はじめまして、昭和大学出身の油木真衣(ゆうき まい)と申します。

北部病院で研修させていただけることを、大変嬉しく思っております。これからの2年間、技術や知識はもちろん、医師としての姿勢や態度もしっかりと学び、実りある研修にしていきたいと思っております。

4月に研修が始まってから、日々自分の未熟さを痛感しています。しかし、多くの先生方、スタッフの方々から丁寧なご指導を頂き、毎日沢山のことを勉強させていただいています。

まだまだわからないことも多く、ご迷惑をおかけしてしまうこともあるかと思いますが、患者さまの支えとなれるような医師を目指し、日々精進を重ねて参ります。精一杯努力致しますので、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

吉田 知史 金沢医科大学卒業
5月 内科
6月 消化器センター(内)

はじめまして。金沢医科大学出身の吉田知史と申します。

今年から2年間北部病院で働かせていただけることを大変嬉しく思っています。

これから2年間の初期臨床研修を通して医療従事者としての知識、技術、姿勢をしっかりと学んで身につけていきたいと思っております。

4月から総合内科で研修させていただいています。毎日学ぶ事が多く、また自分の不甲斐なさに落胆することも多いですが、先生方、スタッフの方々の温かいご指導のもと楽しく研修させていただいています。

日々成長し、努力をしていきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひします。

研修医オリエンテーション風景

今年も新しく21名の研修医を迎え、4月2日から9日まで各種オリエンテーションを行いました。

病院長から研修にあつたての心構えを始めに、医療安全、院内感染、電子カルテ操作訓練や採血実習など、各担当者や先輩からレクチャーを受けました。今年からBLS講習を取り入れ、心肺蘇生等の救命処置についての習得も行いました。

救命処置のうち、特殊な器具や医薬品を用いずに行う心肺蘇生法を一時救命処置(BLS(Basic Life Support))と呼びます。

最終日には、テルモメディカルプラネックスという研修施設を利用して実地手技訓練を行いました。この施設は手術室・内視鏡室を始め、各種の医療研修設備が整っており、上級医や先輩研修医、看護師の指導のもと、一日かけてトレーニングに励みました。院内の設備では味わえない、貴重な経験を積めたかと思ひます。

現在、各診療科での研修がスタートしておりますが、皆さん温かく見守って下さい。



参加者みんなで記念撮影



北部イベント

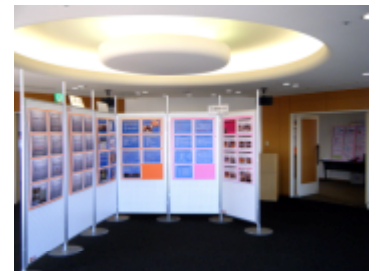
第1回 北部病院医療安全フォーラム

3月11日(木)～12日(金)に、開院以来初めてとなる医療安全フォーラムを開催しました。医療安全管理室を始めとして、各部署・病棟や各種委員会の安全に関する取組みを全職員へ紹介し、他部署での安全への取組みを知ることで、安全への意識を高めることを目的として開催しました。

もちろん院内では、安全に関する講演会や研修会の開催企画をしておりますが、患者さんの緊急対応や勤務表との兼ね合いで参加することが困難な事があります。今回のフォーラムでは、午前の部・午後の部と開催時間を設け、職員が自分の動ける時間に会場に足を運べるように開催調整を行いました。

今回が初開催でありましたので、医療安全管理室が主体となって各部署や部門にフォーラムへの参加協力を呼びかけ、それまでの自部署の安全への取組みをポスター参加(パネル紹介)という形で紹介してもらいました。放射線部、薬局、ME室をはじめ、臨床試験管支援室、7B病棟、化学療法委員会など多数の参加協力が得られました。

また、午後の部では、医療材料等のメーカー協力を得て、埋め込み CV ポートに使用する針の展示や使用方法の実演・パルスオキシメータの製品展示、波形の説明・栄養剤パックの製品展示など実演コーナーを設けました。病棟によっては、普段触れる機会のほとんどない CV ポート。実際触れて、肌と針の感触を経験するなど、体験研修の場ともなりました。座学研修とは異なり、自分の時間の許す限り、納得するまでじっくり情報を得ることが出来る機会となりました。



会場内風景



メーカー実演コーナー



入選標語掲示(会場入口)

また開催に先立ち、全職員へ安全活動のスローガンとなるような標語の募集を行いました。30点を超える応募が寄せられ、病院長をはじめとする病院管理者で入選標語を選びました。(入選標語はフォーラム会場入り口に大々的に展示)しかしながら、職員から投稿された標語に管理者賞が授けられるのは4賞です。それでは、折角、頭をひねって考えてくれた皆さんに申し訳ないと、フォーラム会場で、参加者全員に投票用紙を配布し、特別賞を選びました。そして、入選標語は4月5日、医療安全分科会の席(病院全診療科・全部署の安全担当者(セーフティマネージャー)の連絡会議)にて表彰式を執り行いました。

【最 優 秀 賞】 見て、聞いて・・・ 五感すべてで、確認ヨシ!!! (ME室)
(全職員常時携帯医療安全ポケットマニュアル(第3版)
2010安全スローガンとして、背表紙に掲載)

【医療安全管理室長賞】 安全を、守ろう、防ごう、スタッフで
理念を貫く無事故の病院 (西3病棟)

【優 秀 賞】 シャットアウト 心のスキマの たぶん大丈夫(西2病棟)

【看護部長賞】 One for All, All for One!! (北部病院 ラグビー部)
～あなたの危険予知がみなを病院を救い、
みんなの指差し呼称があなたの危険を救う～

【特 別 賞】 今日のミス、明日のミスにしないこと(手術部)

なお、医療安全管理室では、この企画を毎年3月の定例イベントとして開催できるよう今後も活動していこうと努めております。

編集後記

平成22年度最初の北部病院だよりをお届けします。天候不順なこの春でしたが、5月に入った途端にまるで夏のような陽気になりました。

広報委員会もメンバーが入れ替わり、この第60号からカラー印刷になるとのことで張り切っています。さて今年も21人の新人研修医を迎え、恒例の新人紹介号となりました。今頃は皆、配属された科で奮闘しているはず。また2年間の臨床研修を無事修了した医師達も、それぞれの希望を胸に当院の専門科に入局、あるいは全国の病院へと巣立って行きました。

昭和大学横浜市北部病院も開院10年目に入りますが、彼らのような初心に立ち返ってより良い医療を提供し続けたいと思います。

委員会 委員長 衣笠えり子

北部病院だより 第60号

平成22年5月15日発行

発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 衣笠 えり子(広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』が参照できます。